



# ご利用にあたって

- 「安全情報」は医療・福祉関係の方に向けて発信したものです。一般の方に向けた内容ではございませんのでご注意ください。
- 内容は、いずれも発行日時点のものです。常に最新の情報をご確認ください。



## 安全情報

N0.43

## 【永久気管孔】に注意 塞いではダメ!!

## 【事例概要】

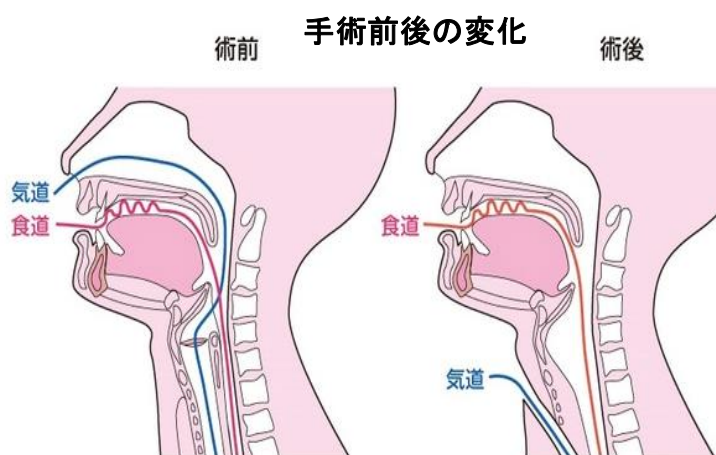
永久気管孔の患者に酸素投与が必要となり、医師の指示で酸素投与した。永久気管孔であることは知っていたが、酸素を口・鼻から投与した。酸素化は改善せず、気管内挿管が必要と判断し、ICU 入室を決定した。入室後の患者観察時に永久気管孔であることに気づき、永久気管孔より酸素を投与すると酸素化が改善したという事例が報告されています。

## 【事故防止の安全対策(例)】

永久気管孔の構造を正しく理解し、永久気管孔であることが一目でわかることがポイントです。

- 1) 永久気管孔の学習会や、安全ニュースを発行する。
- 2) 患者情報(プロフィール)に、「永久気管孔」であることを登録し活用する。
- 3) 先行事例、医療事故収集事業(No.47 患者安全推進ジャーナル)の対策により同様の事例がなくなったとの報告があるため下記の具体的な対策を参考にしてください。
  - 「永久気管孔安全管理カード」を作成する
  - 「気管孔を絶対に塞がないで」とメッセージを表記する
  - 構造を理解できるようにイラストを入れてカードを作成する
  - ベッドサイド・衣服・簡易カードとして多種多様な形態で注意喚起する
  - 酸素投与のマニュアルに患者に適した酸素投与ルートの指示出しを追加する

## 【フィルム剤などで塞ぐと重大事故に】



- 永久気管孔は口や鼻と同じで、気管孔から呼吸しています。
- 絶対に塞がないでください。
- 医療現場以外にも介護現場でも永久気管孔の正しい理解と、対応の周知が必要で

穴が開いたまま

入浴時などに水が入らないように透明フィルムで塞いだため、窒息した重大事例の報告があります



透明フィルムは貼らない

スカーフが巻かれた状態で穴が隠れているので要注意です

